

平成30年6月28日 北海道地方路線問題調査特別委員会 開催状況

開催年月日 平成30年6月28日

質問者 公明党 吉井 透 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p><b>一 JR北海道社長の発言と陳謝・撤回の真意について</b></p> <p>おいでいただきまして今日はありがとうございます。私からも時間も押し迫っておりますので簡潔に何点かお聞きしたいと思います。</p> <p>まず社長のご発言の撤回の真意ということで、6者協議の後の会見で、5区間の国の支援を求めず、また、8区間についても検証結果によっては廃線をにおわすような発言をされたということで、その後、知事に陳謝をされて、またその後の会見で発言を撤回と、こういった経緯をたどられたわけですが、この裏と言いますか、6者会議の中でですね、藤井鉄道局長が経営再生の取組の効果を定期的に検証されるという、こういう発言をしているわけですけれども、国とそうしたやりとりがあったのか。</p> <p>また、社長としては検証結果という言葉で、収支改善について、その後の実効性に自信が持てないというようなことがあるのか。</p> <p>一連の経緯からこうした疑念が湧くわけでありましてけれども、改めてこういった点について、社長の発言の意図、陳謝と撤回の経緯と真意について伺いたいと思います。</p> <p><b>【再質問】</b></p> <p>重ねて疑念払拭のためにお聞きしますが、3日後に、20日に株主総会が開かれたということで、実質的には国が株主でありますけれども、鉄道運輸機構の理事長がご出席をされて、本日の経営再生の見直し案についても、お話を伺ったんだと思いますが、鉄道運輸機構の方から何かこの5区間、8区間の関係でお話があったのか、御社としての先行きについての考え方があったのか、これについてもちょっとお聞きをしたいと思います。</p> <p>改めて今後の社長のご発言については、慎重など言いますか丁寧なご発言をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【島田社長】</b></p> <p>お答えさせていただきます。</p> <p>先生、ご指摘のとおり検証の必要性についてはご支援をいただく以上、国からもご指摘をいただいておりますが、私どもとしては地域に対しても、ご負担、ご支援を一部とはいえお願いする以上、その効果についてのしっかりとした説明、という意味での検証は必要なんだろうと考えております。</p> <p>その方法やり方等々については、具体的な協議の中でこれから詰められていくものというふうに認識しておりますが、いずれにいたしましても一連の発言の中で大変なご不安を与えたことは事実でございますので、これまでの説明に加えまして、この一連の関係についての私どもの真意を地域の皆様に対しても丁寧に説明をしてみたいというふうに考えております。</p> <p><b>【島田社長】</b></p> <p>株主総会の場におきましても、鉄道運輸機構が株主でございますので、私どもの一連の経営再生見直しも含めまして考え方についてご説明をさせていただき、これらにつきましては、それ以前の株主総会等々でも維持困難線区の問題等々の考え方の中で、ご説明をさせていただいているところです。</p> <p>大きな方向性についてはご理解をいただいているというふうに認識をしておりますが、今回の株主総会の場において、個々の実施については、事業者の実施を見守りたいというような趣旨の発言があったのかなと思います。</p> <p>加えまして、先ほど別の委員へのご回答の中でも触れさせていただいておりますが、地域に対しての丁寧な説明をしっかりと行うようにというご指摘を頂戴したところでございます。</p>
<p><b>二 道の総合指針に対する考え方について</b></p> <p>今までの委員にもお話をされておりますけれども、道の総合指針に対する考え方を次に聞きたいと思っております。</p> <p>道の交通政策総合指針については、国も尊重する考えを示しておりますけれども、維持困難とされた13線区を類型分けして方向付けをしていると。その中で、その他に鉄道とバスの接続の利便性を向上させるシームレス交通であるとか、地域を支える人流物流戦略等、5点を2020年</p>	<p><b>【島田社長】</b></p> <p>お答えを申し上げます。</p> <p>北海道交通政策総合指針につきましては、先程来申し上げておりますとおり、重く受け止めるとともに、当社の問題解決に当たってもまさに指針として取り組んでいく必要があると認識をしているところでございます。</p> <p>指針の中で特に維持困難線区に対する基本的な考え方の中で触れていただいておりますとおり、個別の線</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>度までの重点戦略に掲げていますけれども、この指針についてどのように考えているのか、改めて社長の受け止めなりお考えを伺いたいと思います。</p> <p><b>三 沿線地域の協議の受け止め方などについて</b></p> <p>地域には丁寧に説明をされるというお話ですが、今13区間の沿線地域に順次知事が出向いて協議を進めようとしているわけでありまして、協議で出てきた地域の気持ちであるとか意見というものを本当にしっかり受け止めていただきたいと思うわけですが、JR北海道としてこれまでのお話の中でどのように受け止められてきたのか。</p> <p>そして、また今後そうしたことを経営手法の見直しや改革にどのように反映されていくのかお伺いします。</p> <p><b>四 経営再生の見直し案について</b></p> <p>経営見直し案について伺います。先ほどからお話もありますが、現行法での支援の期限となる2020年度までに目に見える改革効果を求めるとする発言を、先の会議、6者会議の中で藤井鉄道局長がされているわけですが、これまで我々も含めてJR北海道の自助努力を前提に議論してきたという経緯がありますけれども、株主総会で新体制にもなったということも踏まえて、まずはこの現行法の期限となる2年間の中でどのように各努力をして、どのような改革効果を見せるのか。そして、先の収支見直しをどのように描いていくのか。ここについてお伺いをします。</p> <p><b>【再質問】</b></p> <p>見直し案の中でグループ役員、社員の意識の改革を掲げていますけれども、まずは、社長自身が先頭をきって意識改革をされて、役員や社員をリードしていくものであると考えておりますが、今後、どのようにしていくのか社長の考えを伺います。</p>	<p>区は存廃等の結論や優先度を示したのではなく、道が総合的な交通政策を推進する上での基本的な考え方を全道的な観点から示したものであり、今後関係者が連携し、検討・協議を推進すべきというご指摘もいただいております。個別の問題については私どもが地域に入って丁寧に説明を行う中において、合意形成を図っていくべきものと認識しております。</p> <p><b>【島田社長】</b></p> <p>お答えさせていただきます。</p> <p>地域における協議、進行の度合いにつきましてはそれぞれに度合いの違いはございますが、これまで地域に対する説明の過程の中において、様々なご意見、場合によってはご批判も含めまして色々なご注文も頂戴してきています。</p> <p>そうした中において、昨今は地域の活性化の観点からのご意見も多数頂戴しているところでございまして、こうしたものを一つ一つ実現可能性も含めまして、地域の皆様としっかりご相談させていただきながら、地域の活性化に繋がるものについて、私どもとしても一つでも多く実現をしていくように努力をしていきたいと考えておりますので、よろしくお伺いしたいと思います。</p> <p><b>【島田社長】</b></p> <p>お答えさせていただきます。</p> <p>まずは、本日もご説明させていただきましたJR北海道グループとしての経営再生に向けての見直し、この中で触れております4つの私どもの経営努力。そして、私どもだけでは解決できない、ご相談させていただかなければならない、3つの大きな経営課題、こうしたことに全力で取り組むことがまず求められているというふうにご認識しているところでございます。2年間の中での効果、ということにつきましては、鉄道業は、先ほどの質疑の中でも、ご説明させていただいているとおり、中・長期の施策、中・長期の中で効果が発現されていくものが多いでございますので、2年間の中で見えてくるもの、見えてこないもの等はもちろん含まれるわけですが、いずれにいたしましても、地域と一緒に取組んでご理解を頂きながら、実現をしていくというプロセスの証を見せていくことが、何よりも求められているのだらうと思います。しっかりこうした点について、取組んでまいりたいと思います。</p> <p><b>【島田社長】</b></p> <p>役員、社員の意識改革の前に、社長である私が先頭をきって意識改革をするべきであると、ご指摘のとおりでございます。先ほどの質疑の中で申し上げましたが、私どもは、まずは安全を事業者としてのトッププライオリティとして掲げながら、この問題を安全の再生ということで、解決をしていくことについて、これまで取組んでまいりました。加えまして、コンプライアンスの徹底を含めました、企業風土の改革ということについても、意識改</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【再質問】</b> 他社のことを言って恐縮ですが、JR貨物は、荷主企業への協同輸送の提案など、本業に対する様々な企業戦略が感じ取れるわけでありますけれども、比べるのは恐縮ですが、今日のこの見直し案には、経営努力という言葉ばかりが並んでおりまして、企業としての経営戦略、前向きな経営戦略というのが全く感じ取れないと、私は思っております。特に、会議の中で知事からも発言があったかと思いますが、札幌圏以外の路線の利便性向上などの収支構造を改革するような戦略をどう描くのか、お伺いしたいと思います。</p> <p><b>【再質問】</b> 運賃改定の記述がありますけれども、利用者へのサービスのインセンティブが改定には必要だと思います。会社の収支改善という理由だけでは、地元の皆さんの理解が得られないと思っておりますが、サービスを具体的にどのように改善していくのか、その点をお伺いいたします。</p> <p><b>【再質問】</b> 新幹線の札幌開業となる2030年度には経営自立をすとされておりますけれども、収支をどのように試算されているのか、この点をお伺いいたします。</p>	<p>革の中で、取りくまさせていただいてきているところで、今後の経営再生の見直しを実現させていくために、地域のご理解をいただく、そのためにも、加えまして経営の透明性ということについても意識改革の中でも取り組んでまいりたいと考えておりまして、様々に、ご説明の中で、求められている数値的な資料等についても、現状は手作業の中でやらさせていただいておりますので、なかなかご要望に、スピーディーにお答えできないというのは、現実としてあるわけですが、こうしたものについても、システム化等々、外部の色々なご意見を頂戴しながら、こうしたものもできるだけ早く実現させていく中において、しっかり、経営の透明性にお答えできるようなことに取り組んでまいりたいと思います。</p> <p><b>【西野副社長】</b> ご指摘いただいたとおり、札幌圏の収益、それから関連事業の収益で地域の線区を維持するために資するように取り組んでいくというのは大前提でありますけれども、併せて各地域を活性化するような施策を進めていくことは、非常に重要だと考えております。6ページに掲載していることを先ほど申し上げましたが、他の旅行会社さんが取り組まないような、旅行会社さんは利潤が上がる時期にしかやりませんので、そうではない時期にいかにお客様においでいただけるかということについて、この一年ほど、私どもは全力を挙げて取り組んでまいりました。北海道でしか見れない、ものすごくいいものがたくさんありますが、その期間が短いと旅行商品にならないので、だれも宣伝をしてくれない、そういったものに焦点を当てながら、私どもは地域に少しでも多くのお客様においでいただけるように取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p><b>【西野副社長】</b> ご指摘のとおり、運賃値上げは、ご利用者の方に大変な痛みを伴うものでありますから、ご理解を頂くことは大変困難なことだと考えておりますが、まず、地域の交通を維持するために運賃値上げをお願いしなければいけないことを、私どもとして、丁寧にご理解いただけるように取り組んでまいりたいと考えております。運賃値上げで上げられた収益は、地域交通の維持のために重点的に使わせていただきたいと考えておりますけれども、少しでも、北海道全体のプラス、例えばバリアフリーでありますとか、安定性の向上だとか、そういったところにも使えるように努力をし、ご利用のお客様皆様にご理解をいただけるように努めてまいります。</p> <p><b>【西野副社長】</b> 平成29年度の実績で、新幹線が約100億円の赤字だということで、このことを解消することが重要だと考えておりまして、私どもの試算、というより目標といたしまして、2030年度の札幌開業時には、新幹線の収支を整備新幹線のルールで収支均衡とするということを目指しております。そのために、速度向上に取り組むとともに、一方、コストについて当社としての努力だけではどうしよ</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【再質問】</b> 最後の質問です。 北海道の鉄道路線を守る使命のある企業として、見通し案は北海道の地政学的な価値を最大限に生かして、国や道、沿線市町村を納得させる内容でなければならぬと考えておりますけれども、最後に社長のお考えをお伺いいたします。</p>	<p>うもない部分について、ご理解をいただき、ご支援をいただけるよう努めてまいりたいと考えております。</p> <p><b>【島田社長】</b> 先生ご指摘のとおり、当社は北海道に根ざす鉄道会社であり、北海道の地理的な環境と向き合い、事業を行って行く宿命をもっております。花咲線につきましては、北方領土隣接地域を走行する唯一の鉄道路線であり、これまでの歴史的経緯や今後の進行を考えますと、当社としても指針を踏まえ、地域の皆様とご相談をしながら、鉄道維持に向けての議論を進めてまいりたいと考えているところです。宗谷線につきましても、ロシア極東地域と本道との交流拡大の可能性を見据え、地域の皆様とご相談を進めるに当たっては、こうしたことも配慮しつつ、鉄道維持に向けて、議論を進めてまいりたいと考えております。</p>